

平成25年9月定例市議会

厚生委員会資料

陸上自衛隊高等工科学校視察について

市民環境局市民部市民生活課

## 陸上自衛隊高等工科大学視察について

出張日 平成25年9月5日

出張先 陸上自衛隊高等工科大学  
(神奈川県横須賀市御幸浜2番1号)

出張者 大橋 市長、北 政策推進部長、上田 秘書課秘書班長、  
岡 市民生活課長、中村 市民生活課総務班長

### 学校の概要等

高等工科大学は、防衛省所管の学校で、将来、陸上自衛隊において、高機能化・システム化された装備品を運用するとともに、国際社会においても自信を持って対応できる自衛官となる者を養成するための男子校で、1学年の定員は320名、1個区隊(1クラス)約30名で、1学年11個の区隊から編成されています。

学校の沿革ですが、昭和30年に「自衛隊生徒制度」が発足し、昭和38年からは少年工科大学として、その後、平成22年度の自衛隊生徒制度の変更に伴い、高等工科大学へと改編され、現在に至っています。

なお、平成23年度の採用からは従来の一般試験に加えて、中学校校長などの推薦を受けた者の中から、高等工科大学生徒として相応しい者を選抜する推薦試験制度が導入されています。

また、生徒は特別職の国家公務員であり、毎月の生徒手当に加え、年2回の期末手当が支給されます。

### 教育内容等

高等工科大学は、3年間を通じて普通科高校と同様の教育を行う「一般教育」、工業高校に準ずる専門的技術の教育を行う「専門教育」、陸曹候補者として必要な防衛教養や各種訓練を行う「防衛基礎学」を主たる教育として実施しています。

特に、3学年時の専門教育では、充実した学習環境で一般教育に加え、ロボット製作等を通して将来の技術的スペシャリストとしての素地を身につけるための教育が実施されています。

また、体力や気力、自立心、チームワーク、情操等を養成するため、クラブ活動やボランティア活動等も積極的に行われています。

同時に、工科大学は通信制の県立普通科高校である「横浜修悠館高等学校」と提携しており、学校での一般教育の受講により、3学年修了時には、普通科

高校の卒業資格が取得できるシステムとなっています。

工科大学の学生は、この県立高校の学生としてクラブ活動などを通じ、各種の大会にも参加、出場していますが、特に今年度の全国高校軟式野球選手権大会において、優勝したことが話題となっており、学生たちに自信と誇りを与えるとともに、工科大学の名を高めている様子でした。

卒業後の進路は、防衛大学や航空学生を受験する生徒もいますが、殆どの生徒は陸上自衛官（陸士長）として任官され、約1年間の教育を経た後に、3等陸曹に昇任し、陸上自衛隊の中核として活躍しています。

## 学校生活

高等工科大学は全寮制で、生徒は入校と同時に、全員校内の施設で、起床から消灯まで、決められた時限に従って規律正しい団体生活を送っています。

特に、新入生に対しては入校後の不安な気持ちを解消するため、「学習」や「生活」に関して、区隊職員や学級担任、先輩である2年生、3年生が気軽に相談に応じられる きめ細かなサポート体制が整えられています。

## 感想

未来の自衛官となるべく、高い理想を持った学生が全国から集まり、たいへん活気に溢れた学校であり、指導にあたる校長以下防衛教官や職員からも、将来の国防を中核で担う若者を大切に育てようとする、厳しい中にも慈愛ある気持ちが感じられました。

駐屯地に隣接した広大な敷地に整備された施設はたいへん立派で、体育館の建替えが進められていました。また、学校行事等では、一部、地域住民等が使用することもあるとのことで、地域住民との交流や地域振興に貢献する一面もあると感じました。

授業風景について、日々厳しい日課の中で集団生活し、一般的な学生に比べてかなり自由は制約されているとの説明を受けていたため、非常に緊張した授業の様子を想像していましたが、授業を参観しての率直な感想は、一般の高校生とあまり変わりなく、思っていたよりも自由で朗らかな雰囲気でした。また、英語科において外国人講師による英会話を実践したり、家庭科においては裁縫や調理などを重点的に取り入れるなど、自衛官となった途端に実践に生きるような内容を工夫されていました。これらは、防衛教官等が創意工夫して教育を研究している成果であると思われ、生徒たちも伸び伸び学習しているように見受けられました。とはいえ、将来、自衛官として活躍していくための規律や基本的な生活習慣の習熟が徹底されていることは、見学した生徒舎（寮）の部屋が整然と規則どおりに整理整頓されていたことなどからも、十分窺い知ることができました。